

Noise after total knee arthroplasty has limited effect on joint awareness and patient-reported clinical outcomes

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-02-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 谷口, 浩人 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032716

主論文の要約

Noise after total knee arthroplasty has limited effect on joint awareness and patient-reported clinical outcomes.

邦訳：人工膝関節置換術後の異音の膝関節への意識および患者立脚型評価への影響は限定的である

東京女子医科大学整形外科学教室
(指導：岡崎 賢 教授) ㊞
谷口 浩人

BMC Musculoskeletal Disorders 21 巻：** (2020 年 2 月 **日発行) に掲載

【目的】

人工膝関節置換術 (TKA) は、変形性膝関節症に対する手術療法として、その除痛と機能改善効果は確立されている。しかし、一部の患者は TKA 術後の結果に必ずしも満足しておらず、医療者側が行う評価と乖離していることが指摘されている。そのため、従来の客観的評価に加え、患者立脚型評価 (PROM) を用いた主観的評価が、治療成績の評価に用いられている。Forgotten Joint Score-12 (FJS-12) は、患者の関節への意識 (いかに関節が気になるか) を評価する PROM で、問題のない関節は日常生活で意識しなくなるという事実から、その評価目的に開発された。Knee Society Scoring System-2011 (KSS-2011) は、満足度、期待度、および関節の機能に関する PROM である。この様に、関節の機能を直接評価することに加え、「その関節のことを意識するか」や「手術に満足しているか」といった、患者の全般的な主観を重要視するようになっている。

また TKA 術後では、一部の患者は膝の「異音」を訴える。生来の関節とは異なる人工関節では、関節構成体が主として金属とプラスチックに置換されており、関節の動作時などにその音を自覚することがある。異音が臨床結果にどのように影響するかについては議論の余地があり、その評価法も確立されていない。この研究の目的は、異音が、術後の膝関節への意識や満足度、膝関節機

能にどのように影響しているかを、FJS-12、KSS-2011 との関係を検証することで明らかにすることである。

【対象および方法】

TKA 術後 1 年以上経過した 225 例 295 膝を対象とし、後ろ向きに評価した。FJS-12 および KSS-2011、異音のアンケートを聴取した。異音に対するアンケート法は、FJS-12 のアンケート形式に倣った方法（設問；「人工関節から発する音が気になりますか」；回答 5 択の選択肢：ほとんどいつも(0点)、ときどきある(1点)、あまりない(2点)、ほとんどない(3点)、まったくない(4点))により評価した。FJS-12、KSS-2011、および異音間の相関関係を分析した。またTKA のインプラントの機構に基づいて 4 群に分類し、FJS-12、KSS-2011、異音について 4 群間で比較した。本研究計画は、東京女子医科大学倫理委員会の承認を得ている（承認番号 4681）。

【結果】

FJS-12 と KSS-2011 のスコアの間には強い相関関係を認めた(0.70; $p < 0.001$)。FJS-12 は特に KSS-2011 のサブスコアである「症状」、「満足度」、「標準的活動」と相関した（いずれも相関係数約 0.60）。一方異音は（平均 3.1 点、標準偏差 1.3）、関節への意識との関連があると予想されたが、FJS-12 (0.28; $p < 0.001$) および KSS-2011 (0.20 $p < 0.001$) と、相関は認めるも弱い相関であった。機構別の比較では、BCS は KSS-2011 や術後膝関節の可動域は優れるが、異音スコアは劣るなど、双方の結果が相関しない例も認めた。

【結論】

TKA 術後の異音は、治療した関節への意識や臨床成績に、あまり影響を及ぼさない。